

平成 14 年度物理学学科カリキュラム委員会の申し送り事項

文責: 佐々木節

基本方針・全般的な事項

- 物理学科授業担当に関しては(共通教育も含めて)、物理専攻・宇宙地球専攻の区別なく、学科の各メンバーがほぼ一様の duty を持つように配慮する。授業担当者はカリキュラム委員会で原案を作成し、各専攻の了承を得る。現状での負担の標準は、一人当たり共通教育 1 コマ + 専門 1 コマ相当分。大学院に関しては、それぞれの専攻の特殊事情もあるので、duty として考慮しない。
- 4 年生進学判定は、カリキュラム委員会がそのガイドラインを作り、原則的にカリキュラム委員会で判定する。(すなわち、学科長が変わるたびに、あるいは年度毎に判定基準がぶれる事がないようにする。)
- 専門科目の中で、基礎的科目(別表)に関しては、カリキュラム委員会で決定したその骨子となる内容(シラバス骨子)を、授業担当者に遵守して頂く。
- 「物理学セミナー 1, 2」に関しては、担当は各教官ではなく、研究グループ単位とする。それぞれ約 8 名ずつ 10 グループに分けて、前後期のべ 20 グループに担当して頂く。内容は、各担当グループに完全に任せる。協力講座のグループにも担当していただく。積極的に担当したいというグループには優先的に 1 年に(すなわち毎年)1 コマの担当をお願いする。それ以外のグループは平均的にほぼ 1。5 年に 1 コマの負担。なお、「基礎ゼミ」と同時開講しても構わない。
- 平成 15 年度から廃止になる必修科目に関しては、再履修対象者がいる限り、短期集中型で開講する。名目上の担当者はカリキュラム委員長として、カリキュラム委員長が担当者を割り当てる。その際、担当者を「物理学セミナー 1, 2」の負担を考慮して決める。
- 演義(旧演習)科目のアドバンスコースとスタンダードコースのコースわけは、基本的には学生の希望に沿うようにするが、人数に大きな不均衡が生じた場合の調整の仕方は、まだ未定である。

平成 15 年度開講の物理学科専門科目の変更点

- 「物理学 1」「物理学序論 1」「物理学 2」「物理学序論 2」を新設(共通教育必修科目)。
- 「現代物理学入門」を新設(共通教育選択科目。15 年度は 1 年生のみ履修可。)
- 「物理学セミナー 1, 2」を新設(専門選択科目)。
- 「自然科学実験 1」を新設(共通教育科目)。「自然科学実験 2」は 16 年度より開講。
- 「宇宙地球科学 1」「宇宙地球科学 2」を新設(共通教育選択科目)。
- 「力学 1」「力学 1 演義」(専門必修科目)「力学 2」(専門選択科目)を新設。16 年度より開講。
- 「現代物理学の動向」を廃止(再履修者は「物理学セミナー」で科目名読み替え)。
- 「現代力学 1」を再履修者向けに開講。名目上担当者はカリキュラム委員長。少人数短期集中型(試験を含めて 4 コマ程度)。開講時間は学生との協議で決める。
16 年度からは「力学 1」を履修させ、科目名の読み替えを行う。
- 「現代力学 1 演習」を再履修者向けに開講。名目上担当者はカリキュラム委員長。少人数短期集中型。開講時間は学生との協議で決める。
16 年度からは「力学 1 演義」を履修させ、科目名の読み替え(事務上は同時開講)を行う。
- 「現代力学 2」を再履修者向けに開講。名目上担当者はカリキュラム委員長。少人数短期集中型。開講時間は学生との協議で決める。
16 年度以降は「力学 2」を履修させ、科目名読み替え。

- 「現代力学 2 演習」を再履修者向けに開講。名目上担当者はカリキュラム委員長。少人数短期集中型。開講時間は学生との協議で決める。
16 年度以降も、再履修者がいる限り同じ形式で開講。
- 「解析力学」を従来通り 2 年生選択科目として開講。平成 12 年度以前の入学者（必修）はこの科目を再履修。16 年度のみ開講しない。
17 年度以降は 3 年生選択科目として開講時期変更。
- 「固体地球科学概論」を従来通り 2 年生選択科目として開講。16 年度から「地球科学概論」に名称変更。
- 「結晶物理学」を従来通り 2 年生選択科目として開講。16 年度のみ開講しない。17 年度から 3 年前期に開講時期を変更。
- 「電磁気学 3」を従来通り 3 年生選択科目として開講。平成 12 年度以前の入学者（必修）はこの科目を再履修。17 年度から「電気力学」に名称変更。
- 「連続体力学」を 3 年前期から 3 年後期に変更。
- 「量子力学 3 演習」を再履修者向けに開講。名目上担当者はカリキュラム委員長。少人数短期集中型。開講時間は学生との協議で決める。16 年度以降も、再履修者がいる限り同じ形式で開講。
- 「物理数学特論」を開講しない。16 年度まで「開講せず」とする。17 年度より科目廃止。
- 「量子地球物理学」を従来通り 3 年生選択科目として開講。17 年度より「地球惑星進化学」に名称変更。
- 「地球惑星物質学」を新設（15 年度は開講しない。15 年度入学生が 4 年になる 18 年度から開講）。
- 「場の量子論」を従来通り 4 年生選択科目として開講。18 年度から「相対論的量子力学」に名称変更。
- 「宇宙物理学概論」を従来通り 3 年生選択科目として開講。17 年度のみ開講しない。18 年度より 4 年生選択科目として「宇宙物理学」に名称変更。「量子力学特論」（大学院との共通科目）を大学院で開講する限り、従来通り 4 年生選択科目として開講。18 年度以降廃止。
- 「... 概論（科学と社会）」を新設。“...”には“数学”，“物理学”，“化学”，“生物学”が入り，実質的に理学部共通で開講。大学・教育機関以外から講師を呼ぶ。計 7 コマ（選択 1 単位）。講師の手配等は，理学部学務運営委員会が受け持つ。

その他

- ★ 平成 13 年度以前入学生で「物理学輪講」「宇宙地球科学輪講」（各半期 2 単位・選択必修）を再履修する必要がある学生には「物理学・宇宙地球科学輪講」（通年 4 単位）を履修させる。（事務上は「物理学輪講」と「宇宙地球科学輪講」を「物理学・宇宙地球科学輪講」同時開講。）他の必修科目との二重聴講が問題となるときには，カリキュラム委員長がそれを確認し，半期の聴講での単位を許す。
- ★ 二重聴講に関する対応は，理学部学務委員会で現在検討中。現状では，必修科目同士の二重聴講は，それぞれの科目の担当教官の了解を得た上で，カリキュラム委員長が許可している。